

Since2014



# MYANMAR Press



YJS(ヤンゴン日本人学校)

派遣者通信

第5号

2015年1月4日

文責 市橋 良浩

## 猛烈な雨季が明け、新校舎建築に着手しました。～アクウ・ネー・ブーデーです。



僧侶を招いての地鎮祭。僧侶と参加者のコーラソフトドリンクが続きました。



建設予定地は本校テニスコート。3回ほど児童生徒とテニスを楽しみました。



連日30人以上のマンパワーで土台が作られ、1月4日現在2階の床のほりを建設中です。とにかく工法には驚きの連続です。



12月19日現在幼稚部、小学部、中学部を合わせて137名が在籍しています。現在幼小中連携がうたわれている中、世界的に幼小中が併設している日本人学校は稀であります。1昨年まで全校園児児童生徒数は70名程度でしたが爆発的に人数が増え続け、現在いくつかの学年でウェイティング状態(入学待機)となっています。その状況を改善するべく、乾季(10月～)に入り工事が始まりました。

テニスコートのアスファルトがマンパワーで砕かれ砂利となったり、頭にセメントが入ったバケツを乗せて運んだり工法には驚きの連続ですが、現在は2階のほりを鉄筋で作り、セメントを流し込む作業を行っています。完成後は200名程度を受け入れる校舎に変わりますが、さらに300名規模の園児児童生徒の受け入れのための新校舎建築が始まります。

## 宿泊体験学習に引率してきました。テーマは「限界を越えろ」でした。



宿泊体験学習でヤンゴンから北にあるマンダレー、ザガイン、ピンウーリンに行ってきました。ヤンゴン日本人学校中学部では毎年全員参加で2泊3日～3泊4日の日程で宿泊体験学習を11月に行っています。(3年生にとっては受験直前で厳しい時期ですが、雨季明けと学校祭明けということで11月に行っているそうです。)

さて中学部宿泊体験学習のテーマは「限界を越えろ」。「限界は自分で作るもの。その“限界”を“限界”と感じるかそうではないかはやってみないとわからない。」宿泊体験学習の事前視察の際にワッチェ診療所で働くある医師からこの言葉を伺い、テーマに設定しました。宿泊体験中は、世界遺産のパゴダ(寺院)を見学したり、植物園でウォークラリーを行い、英語やミャンマー語で訪問客とコミュニケーションを図ったり、診療所では患者さんと折り紙やメッセージカードの記入をミャンマー語や英語で交流しました。普段は学校と家庭の往復がほとんどの日本人学校の生徒が多い中、この時ばかりは、リミッターが外れたかのように自ら積極的にコミュニケーションを図る様子を見ることができました。帰校後はパソコンと冊子に内容をまとめ、報告会を行いました。

## ミャンマーでどこまで体験できるか？その4 実際行われている手術を見学する。



宿泊体験学習の最大の目的は NPO 法人 Japan Heart のザガイン ワツチェ診療所に1日職業体験学習でした。ボランティアで日本から診療所に来ている医師や看護師から、ミャンマーへ一歩踏み出した理由や、看護師や医師を目指した動機などを伺うために夕食とともに座談会形式で行いました。将来が明確ではない人が多い中学部17名は、スタッフの方々からの話を伺い、心が大きく揺さぶられました。写真は日中に行った、陰嚢水腫と背中脂肪腫の手術のものです。実際の手術を見学する経験は日本ではまずありません。ある生徒は、家庭科で習った玉止めが、実際の手術にも用いられているのには驚いたという感想を述べていました。

## 安倍首相夫人 昭恵様の表敬訪問がありました。

## ミャンマーの新聞でも紹介されました



11月13日、日本人学校に安倍首相夫人、昭恵様が表敬訪問していただきました。日本人学校の表札が安倍首相直筆のものであることは、これまでの派遣者通信でお伝えしましたが、今回はその表札視察と、図書への寄贈をしていただきました。

また故安倍晋太郎外務大臣がかつてヤンゴン日本人学校を表敬訪問されたとき、天体望遠鏡を寄贈していただいたことから、今回新たな望遠鏡を安倍首相より寄贈していただきました。

表敬訪問中は、昭恵様から、ミャンマーの養護施設への支援をしている話や、安倍首相のプライベートの話など児童生徒からの質問にざっくばらんに答えていただきました。

ミャンマーの NLD (National League of Democracy: スーチーさんが率いる政党) の機関紙の1面に、衆議院議員選挙で自民党が大勝したニュースが報道されていました。

ASEAN+3などでミャンマーを訪れている安倍首相の認知度も高くなってきています。

## ミャンマー語講座 4～タクシーの運転手との料金交渉～

ミャンマーのタクシーはメーターがなく、すべて運転手との交渉で料金が決まります。行き先と料金交渉をする際のミャンマー語です。

- |                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 運: タクシー? (タクシーのドライバーが近寄ってくる。)       | 自分: タクー-イェ-モンコド ティーラー (タクー-イェ-モンコドを知ってる?)                 |
| 運: ティーデー コナタウン (知ってるよ、7000チャットでどう?) | 自分: ゼーチーデー-ノ ンガーダウンチャット ヤーマラー (それは高いね、5000チャットでもいいんじゃない?) |
| 運: コナタウンヤーデー (7000チャットじゃないとだめだよ)    | 自分: トワ トワ (じゃ行っていいよ。)                                     |
| 運: チャウタウン ヤーマラー (6000チャットではどう?)     | 自分: う〜ん ホウツケ ホウツケ (う〜んは日本語 じゃあそれでいいよ)                     |

東南アジアには外国人料金というものが存在し、外国人はお金を持っているから、ミャンマー人より多くとっても悪くないという考えがあるようです。自分はそう思われるのがとても嫌なので、つたないミャンマー語で応戦しますが、やりすぎると身の危険を感じることもあるのでやりすぎには注意しています。(市街地で120\*。なんぼなんでも、それはないっしょ。正直生きた心地がしませんでした。)